

意見交換会報告書

令和8年2月16日

尾張旭市議会議長 殿

委員名 (議員名) 櫻井直樹

開催日時	令和8年1月30日 午後1時40分 ~ 午後3時00分
開催場所	尾張旭市渋川福祉センター 3階 文化室
出席議員	櫻井直樹、勝股修二、秋田さとし、芦原美佳子、榊原利宏、陣矢幸司、若杉たかし、さかえ章演 (議長)
参加人数	議員8名 こども★日本語サポーターズ5名 計13名
団体名	こども★日本語サポーターズ
テーマ	外国人児童生徒への効果的な日本語指導実施について
主な意見 ・提言等	市内小中学校で日本語がほとんど分からない児童生徒が増えている。初期日本語教育が重要であるが、本市には指導員の登録制度がなく、学校教育課からの支援要請はない。多様性推進課や直接学校から日本語支援の要請が来ている。 市は、早急に登録制度を制定し、必要な支援ができる体制を整えて欲しい。 具体的な意見交換会の内容は、別紙のとおり。

意見交換会実施要綱第10条第1項の規定により、次のとおり報告します。

I テーマ「外国人児童生徒への効果的な日本語指導実施について」

サポーターズからの現状報告の後、議会側に意見を求められたのは主に以下の4点。

① 日本語指導の「取り出し」指導の問題

現職の教員のみ「取り出し」を行うという原則に従うと、教員以外は日本語指導を行うことができない。サポーターズメンバーは、教員資格あるいは日本語教師の有資格者で構成されており、日本語指導のスキルと経験があるが、現在それを生かすことができない。

市の日本語指導員として認められれば、「日本語初期指導」を行うことができるが市には制度がない。他市では整備されており、公立校は同じレベルの教育をできるようにするべき。

② 日本語指導における「入り込み」指導の問題

サポーターが授業中の生徒に寄り添う「入り込み」指導においては、日本語がほとんど分からない高学年の生徒の授業に同席しても、学習内容が高度なためサポートが生徒の学びにならない。同じ時間を使うのであれば「取り出し」で集中的に学んだほうが効果的である。

③ 日本語指導を担う人材確保、処遇の問題

市に日本語指導員の登録制度がないため、ボランティアとしての扱いとなっており、新たに日本語教師有資格者などで活動参加を希望する人もいるが、無償のまま継続的に活動することに疑問が生じている。無償のままでは継続はできない。

③ 市の対応課が多様性推進課である時や学校から直接要請がある問題

サポーターズへの支援依頼が多様性推進課であったり学校から直接あったり、どこが外国人児童生徒への日本語指導を主導しているのか不明である。



II 福祉文教委員の意見とサポーターズ回答

○登録制度について

[市議会]

これまでは対象児童数が少なく、対応は難しいが我慢すれば過ぎていた。対応の必要な問題と認識されずに来たが、今後は、対象児童が増えて行くので制度化が必要になる。また、普通の教科指導と手法が異なるので、現職教員が日本語指導を行うのは困難ではないか。

[サポーターズ]

子どもたちは第2言語を学ぶことになり、現職教員では言語指導は無理。3か月集中の初期指導を行い、その後、教科指導につなげる連携は可能。初期日本語指導は、登録制度によって登録できれば、現職教員でなくてもできる。登録制度をつくってほしい。資格など、どういう制度にするかは市の考えによる。

[市議会]

外国の子どもたちが何らかの理由で来日し、言葉が分からず、会話ができずに困っていることは理解できる。20年間もボランティアの方々に頼っているのは、市の甘えと考える。

[サポーターズ]

20年前から援助しているが、市から頼まれて指導に入ったことはなく、民生委員から依頼されたりしていた。校長の裁量で「いる」「いない」が決まる。義務教育では考えられないこと。瀬戸市では制度があり、尾張旭市もすぐにできそうに思う。

(瀬戸市、長久手市などの事例)

瀬戸市：市教委主導 日本語指導員が「取り出し」時給1500円

長久手市：市教委と国際交流協会を通じた仕組み 学校⇒市教委⇒国際交流協会の流れ。

日本語指導員が「取り出し」「入り込み」時給1400円

[市議会]

課題がある子どもたちに対しては、心の教室相談員やスクールソーシャルワーカーが支援しているが、日本語が分からない子どもに対しては、何もされていない。

日本語教育制度は、市町で行うことか。国や県の制度は？

[サポーターズ]

制度化は、各自治体で行っており、それに対して国や県の補助制度もある。

尾張旭市の場合、学期ごとに3千円の図書券が支給されるようになったが、学校の予算で賄われており、予算が尽きれば図書券がないことになる。

○「取り出し」と「入り込み」

取り出し授業は、日本語で通常の授業をやることと同様で、1時間の授業の準備に倍以上の時間がかかるが、これが無償で教材も自分持ちでは続ける意欲がなくなる。

「入り込み」は、特別に準備の必要はない。

24年度は、ほぼ「取り出し」だったが、25年度から「取り出し」が減った。教師のみが「取り出し」指導できるとされたため。

○進学問題 短期間では日本語も習得できない。中卒後、あきらめて何もせずにいる子もいる。微妙な年齢の子どもたちへの支援が必要だが、限界がある。中3まではやりやすい。

[市議会]

我々は、普通に日本語が話せるから日本語が分からない人の気持ちは、なかなか理解できない。対象となる子どもの数は少ないが、対応して行かなければならない。継続的に支援ができるように、指導者の人材確保も必要になる。

III まとめ

外国人児童生徒への初期日本語教育について、制度化の必要性を参加者全員が認識できた意見交換会であった。議長からも制度化すべき課題であり、政策提言に向けて取り組むのに適している課題であるとの助言があった。